

2019 シカ年度 エゾシカ捕獲事業計画(遺産地域内) (確定版)

1. 目的

エゾシカの個体数調整を実施することにより、知床国立公園および知床世界自然遺産地域におけるエゾシカの過増加による生態系への深刻な悪影響の緩和を図る。

2. 捕獲実施場所

斜里町幌別-岩尾別地区、羅臼町ルサー相泊地区 及び 知床岬地区

3. 捕獲実施期間

令和元(2019)年12月～令和2(2020)年5月

4. 事業内容

(1) 幌別-岩尾別地区

斜里町幌別及び岩尾別地区の位置図1の箇所において、以下のとおりエゾシカの捕獲を行う。捕獲目標頭数は計100頭。

①仕切柵を用いた囲いわな式捕獲(岩尾別台地上)

位置図1の①の箇所に設置されている大型仕切柵を囲いわなとして使用し、エゾシカを捕獲する。仕切柵付近においてヒグマの活動が確認された場合は捕獲を一旦中止する。捕獲目標頭数は10頭。

- ・捕獲用扉付近において3月下旬までの期間に乾草ブロックによる給餌(1回30kg程度、計6回程度)を行う。
- ・2～3月の期間に5回程度捕獲作業(捕獲成功に至らなかったケースを含む)を行う。捕獲されたエゾシカは原則として銃等による止め刺し後に死体で搬出し、利活用施設に無償にて引き渡す。
- ・仕切柵内外のエゾシカの誘引状況を観察するための自動撮影カメラを5台程度設置する。

②くくりわなによる捕獲(岩尾別台地上、幌別川河口周辺、プユニ岬周辺)

くくりわな計20基程度によりエゾシカを捕獲する。わな付近でヒグマの活動が確認された場合は、捕獲を一旦中止する。捕獲目標頭数は40頭。

- ・1～3月の間、岩尾別台地上及び幌別川河口付近、プユニ岬周辺等の林内等(位置図1の②)に、くくりわなを20基程度設置する。
- ・わな周辺において給餌(各わな1回3kg程度、計15回程度)を行う。
- ・わな周辺にエゾシカの誘引状況を観察するための自動撮影カメラを6台程度設置する。

③小型箱わなによる捕獲(幌別川河口周辺、プユニ岬周辺、幌別森林 1ha 柵周辺)

箱わな計 4 基程度によりエゾシカを捕獲する。わな付近でヒグマの活動が確認された場合は、捕獲を一旦中止する。捕獲目標頭数は 10 頭。

- ・1～3 月の間、幌別川河口周辺及びプユニ岬周辺、幌別森林 1ha 柵周辺の林内等(位置図1の③)に、箱わなを計 4 基程度設置する。
- ・餌付けは乾草ブロック等のヒグマを誘引する恐れのない飼料により、各わな1回当たり 8kg 程度、計 15 回程度行う。
- ・捕獲したエゾシカは電気等による止め刺し後、無償にて利活用施設に引き渡す。
- ・捕獲個体が入っている箱わなの周囲から離れない別個体がいる場合は、周囲の安全確認の上、銃による捕獲も可とする。
- ・わな周辺にエゾシカの誘引状況を観察するための自動撮影カメラを 4 台程度設置する。

④岩尾別における待ち伏せ式誘引狙撃による捕獲

岩尾別川河口付近右岸および岩尾別台地上(位置図 1 の④)において、餌により誘引したエゾシカを、林縁等に設置したブラインドやハイシート等からの待ち伏せ狙撃を基本に捕獲する。業務実施区間付近でヒグマの活動が確認された場合は、一旦捕獲を中止する。捕獲目標頭数は 30 頭。

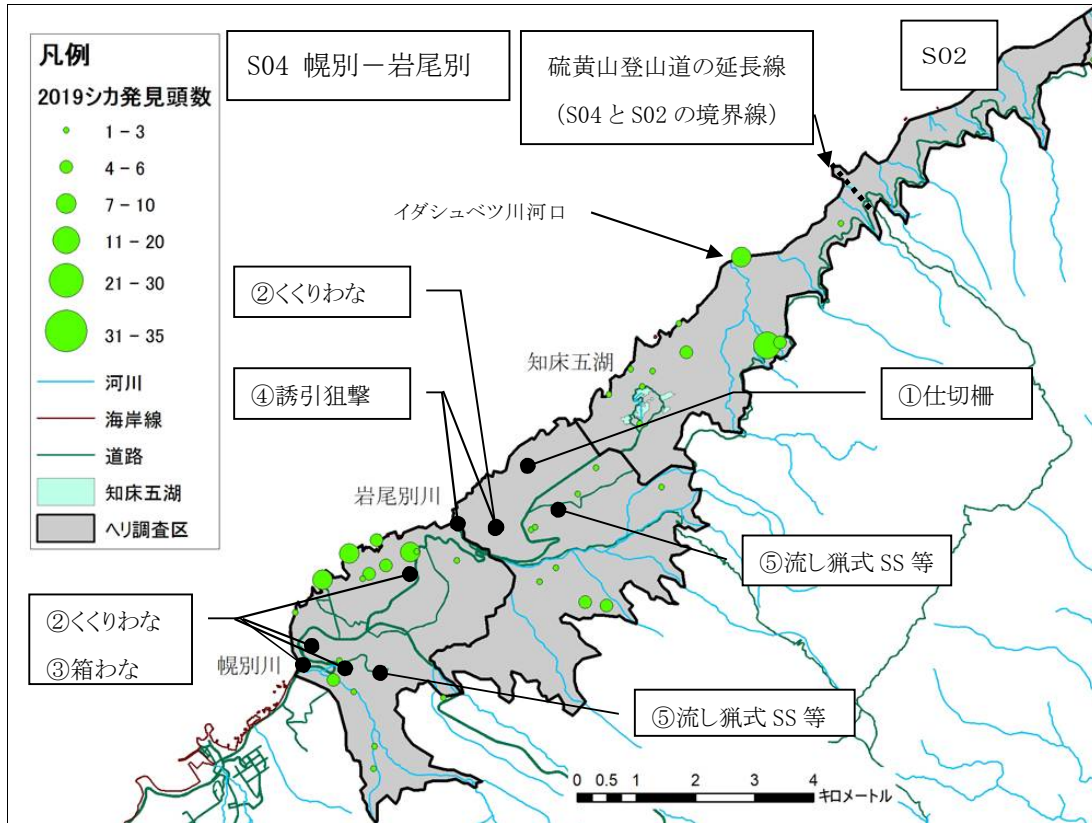
- ・岩尾別橋から岩尾別川河口へ至る通路沿線において、1～3 月の間に、4 箇所程度餌付け箇所を設定し、10 回程度乾草ブロックによる餌付け(1地点あたり 15kg 程度)を行う。
- ・1 月～3 月の間に計 10 回程度(捕獲成功に至らなかった場合を含む)、ライフル銃によるエゾシカの捕獲を行う。少数のエゾシカが誘引されている餌付け箇所において、ブラインドの内部やハイシート(3 か所程度)の内部や陰等から狙撃して全頭を捕獲することを目指す。
- ・多数が誘引され、全頭捕獲が困難と予測された場合は射撃を行わない。
- ・捕獲したエゾシカは速やかに回収し、無償にて利活用施設に引き渡す。
- ・捕獲実施に当たっては、事前に関係機関等への FAX や隣接地移住者への電話連絡等を行い、周知を図る。
- ・実施区間の両端に監視員を配置する等により車両及び人の往来がないようにする。

⑤しれとこ 100 平方メートル運動地内における流し猟式SS・待機狙撃等による捕獲

幌別台地上及び岩尾別台地上のしれとこ 100 平方メートル運動地内の作業道沿い(位置図1の⑤)において、流し猟式シャープシューティング、待機狙撃および忍び猟等によるエゾシカ捕獲を行う。捕獲目標頭数は計 10 頭。

- ・実施期間は雪解け後、5～6 月(週 1 回程度捕獲)とする。
- ・捕獲作業は 4 名程度でライフル銃により期間中に計 4 回程度(想定)実施する。
- ・実施日時について事前に関係機関等に連絡を行う。
- ・捕獲実施に当たっては、事前に作業道上の実施区間を巡回するとともに、実施区間の両端に監視員を配置し、車両及び人の往来が無いようにする。

・捕獲したエゾシカは速やかに回収し、無償にて利活用施設に引き渡す。



位置図 1.幌別ー岩尾別地区における2019年2月26日～3月3日航空調査時のエゾシカ発見位置と2019(R1)シカ年度の捕獲実施予定箇所。

(2)ルサ-相泊地区

羅臼町のルサ地区～相泊地区の位置図 2 の箇所において、以下のとおりエゾシカの捕獲を行う。実施に当たっては、地域住民や漁業者その他との軋轢を生じないよう配慮し、必要に応じて除雪を行う。捕獲目標頭数は計 70 頭。

①くくりわなによる捕獲(相泊地区およびルサ地区、昆布浜地区等)

以下のとおり、位置図 2 の②の箇所において、くくりわな 18 基程度によりエゾシカを捕獲する。わな付近でヒグマの活動が確認された場合は、一旦稼働を中止する。捕獲目標頭数は 30 頭。

- ・12 月下旬～3 月の間、くくりわな周辺に乾草ブロックによる餌付け(わな 1 回あたり 3kg 程度、計 20 回程度)を行い、エゾシカを誘引する。
- ・捕獲したエゾシカは電気等による止め刺し後、原則として無償で利活用施設に引き渡す。

②道道における流し猟式シャープシューティングによる捕獲

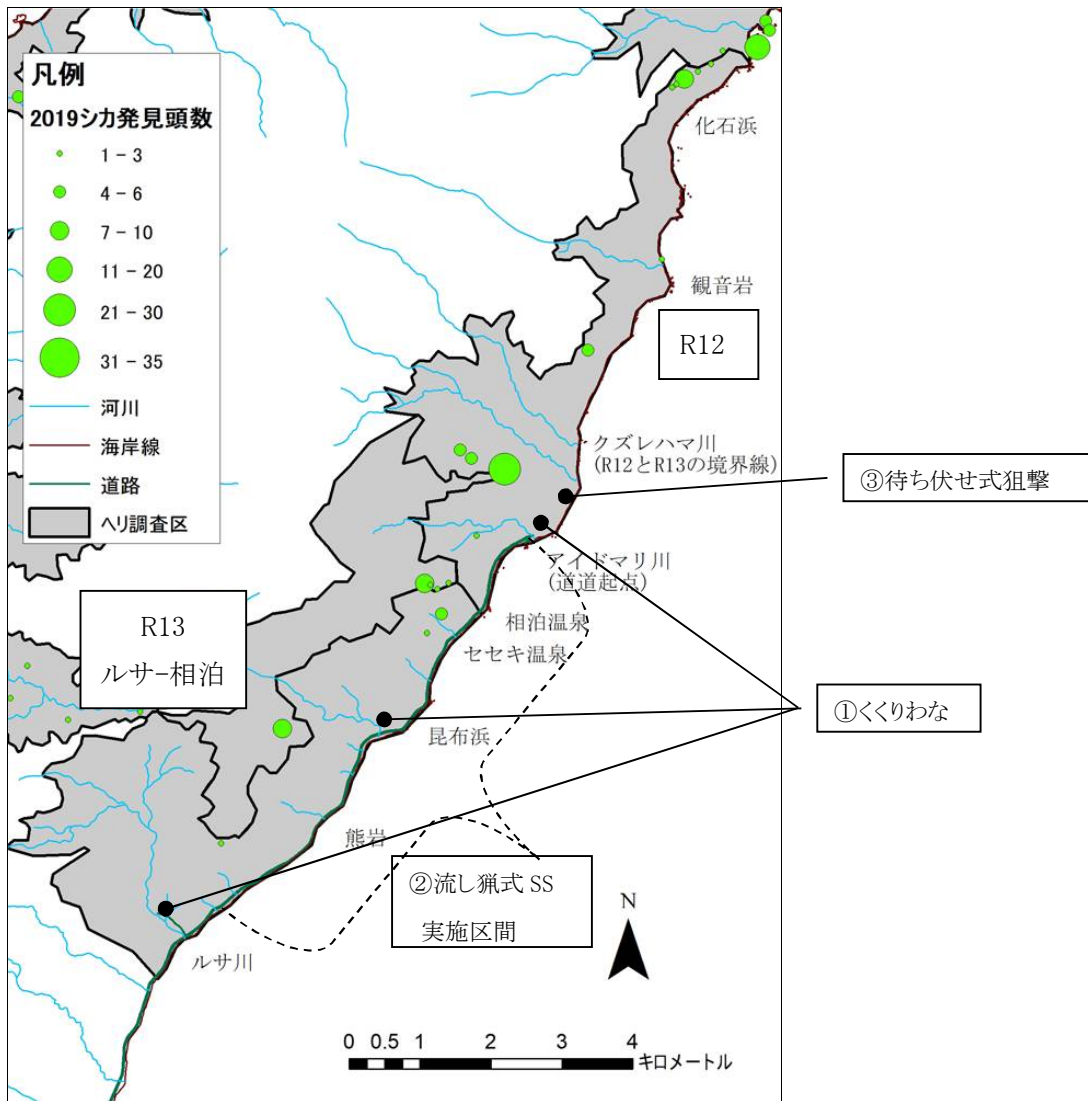
以下のとおり、位置図 2 の②の区間において、流し猟式シャープシューティングによるエゾシカ捕獲を行う。捕獲目標頭数は 30 頭。

- ・道道知床公園羅臼線のうち北浜～相泊の約 7.4km 区間において、1 月及び 3～4 月に射手 1 名程度でライフル銃によるエゾシカ捕獲作業を実施する。
- ・1 月の間に計 3 回程度捕獲作業を実施する。季節移動中の個体を対象とするため、餌付けは行わない。
- ・3 月～4 月に計 7 回程度捕獲作業を実施する。道路沿いに 14 箇所程度の餌付け箇所を設定し、乾草ブロックによる餌付け(初回 30 kg 程度、以降各所 5 kg 程度、計 15 回程度)を行う。
- ・捕獲実施日時については事前に関係機関や住民に周知する。
- ・捕獲実施に当たっては道路管理者と協議し、道路を通行止めとした上で、十分な安全管理体制を整備して実施する。
- ・捕獲したエゾシカは速やかに回収し、無償にて利活用施設の運搬車両に引き渡す。

③待ち伏せ式狙撃

以下のとおり、位置図 2 の③の区間において、待ち伏せ式によるエゾシカ捕獲を行う。捕獲目標頭数は 10 頭。

- ・崩浜南部(アイドマリ側 300m 岬寄り付近～カモイウンベ川間)において、銃によるエゾシカ捕獲作業を実施する。
- ・4 月上旬から馴化・餌付けを開始する。
- ・4 月下旬～5 月下旬の間に週 1 回程度、計 6 回程度捕獲を実施する。



位置図 2.ルサー相泊地区における2019年2月26日～3月3日航空カウント調査時のエゾシカ発見位置と2019(R1)シカ年度シカ捕獲実施予定箇所.

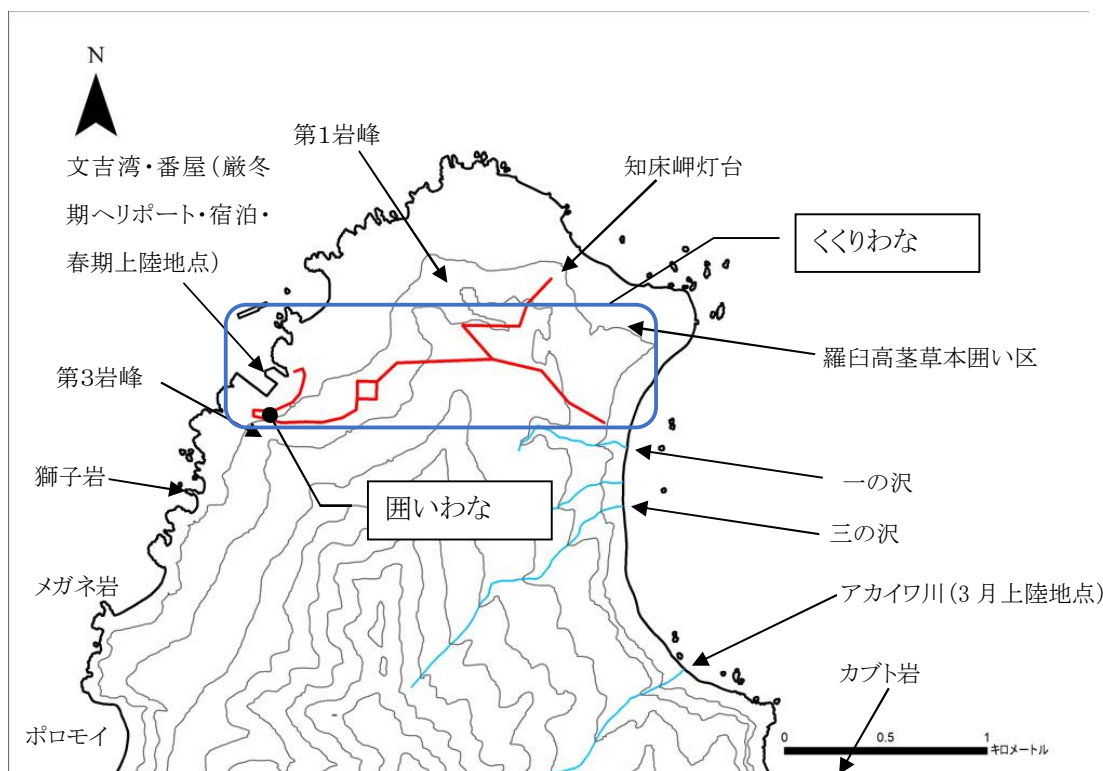
(3) 知床岬地区

知床岬先端部の位置図 3 の区域において、以下のとおりエゾシカ捕獲を実施する。捕獲目標頭数は計 44 頭。

厳冬期の捕獲(ヘリコプター利用)

2～3 月の間に、くくりわな及び仕切り柵を用いた囲いわな(4～7 人程度、3 泊 4 日程度の宿泊を伴う)によるエゾシカ捕獲を実施する。知床岬地区への人員輸送はヘリコプターにより、知床岬地区での宿泊は番屋を借用する。

- ・くくりわな計 40 基程度を仕切り柵周辺のシカ道沿いに設置する。くくりわなでは誘引餌を使用しない。捕獲したエゾシカは電気等による止め刺しをする。
- ・仕切り柵を用いた囲いわなでは、給餌(60 kg、2 回程度)を行う。捕獲したエゾシカは原則として銃等による止め刺しをする。
- ・捕獲したエゾシカは他の個体の移動の障害とならない場所に一時集積する。



位置図 3. 知床岬先端部における 2019(R1)シカ年度シカ捕獲実施予定箇所(赤線が捕獲補助用の仕切り柵).